



銀座界限を吹き抜ける風、 大阪の街場のディープなそよ風

銀座6丁目にGINZAシックスがオープンしたので、昨年早速大きな期待感を膨らませつつ行ってきた。グローバル都市にふさわしい「最高の暮らし」を具現化したこの施設が語りかけるものを、自分がどう受け止めて、そこから何を読み解くのか、ということに興味があったからである。日本の未来を指し示すヒントや提案力こそ、東京のシンボル・銀座のミッションというのは言い過ぎかもしれないが、たしかに練り上げられた知恵の集積がそこにある。きらびやかなブランドの洗練された演出や陳列の仕方等々も注目を引き付けはしたが、なかでも蔦屋書店の書店を超えた人々が集う公共の図書館的空間のあり方にこそ、この施設のもつコンセプトがもっとも象徴されていると感じた。ただ本を眺めるだけで楽しく、くつろげ癒される「場」づくりは、「売り場」としての役割をまったく果たしていないようにもみえる。これでビジネスとしてやっていけるのか、よけいな心配をついしてしまう。こうした空間が複合されて構成されるGINZAシックスから、デザインの「シンプル性」と「透明感」、華美で過剰なものを削り落とした本来の「価値」追究の姿勢を読み取ることができる。それは、それまでの「成長」から下り坂の日本のあるべき「価値」の「創造」と「発展」の戦略的転換ととらえることができるかもしれない。下り坂は「成長」を尺度とした発想で、下り坂であっても、「最高の暮らし」を目指す価値創造の静かな蠢きがGINZAシックスにはある。銀座の近くの新橋、日夜サラリーマン諸氏の飲み屋が集積する界限のブックセンターの入り口に、原田マハの書籍が前面に置かれ売られていたのも、新しい時代の潮目を感じさせるに十分であろう。人口減少の縮小社会の幸せを若者たちに問いかける一書である。一転、大阪の中心街では、インバウンド観光客が昨年1100万人も訪れ、雑多性の猥雑性の街場に吸い込まれる勢いである。「特需」という名の消費に浮足たつようで、これ幸いに降って沸いた需要に翻弄されているような感がある。大阪城の「ミライザ」、黒門市場の熱気沸騰はいうに及ばず、いまや外国人がごった返す喧噪の街になりつつある。そうしたなかで、新今宮駅前に星野リゾートが2022年に進出することになっている。その新コンセプトはOMOで、その地域のローカリティを凝縮して取り込んだ都市型観光ホテルの開業を予定しており、その1号店は旭川市ということで、早速オープン当日の4月28日に北海道まで飛ぶことにした。宿泊の部屋はビジネスホテルとなら変わりがないが、館内には観光のテンションが高まる工夫やデザインがふんだんに施され、特に朝食はワッフルを売りにしたクオリティの高さを感じさせる地元の食材を厳選した豊かさを演出している。そこには、GINZAシックスと同じような「シンプル性」と「素朴さ」、「価値創造」の構えを感じることができた。



私の興味は、この星野リゾートOMOホテルと通天閣界限の連携性、なかでもシャッター通りと化した「新世界市場」商店街の再生に向けたWマーケットの取り組みである。それは週末に開催されて、値札がなく、相互の交渉による相対取引のフリーマーケットで、供給サイドの「価格」よりもお客が付ける「価値」を優先し、それを基軸に新たな人々が集い交流の「場」づくりをしようとする試みである。「価値」は「価格」から離れることはないが、そこには、お客、ひいては日々暮らす生活人の追及する「価値」が逆に「価格」を決定する、新たな市場経済の仕組みの可能性を見いだせるような魅力と吸引力がある。

こうした界限の「内なるグローバル化」時代の再生について、「訪日外国人観光客」を取り込んだ「まちづくり」という観点から、石井ゼミの学生たち、それからそれをサポートする中国人留学生とOB、広く中国に造詣が深い識者やまちづくりの実践者たちを交えて、今後本格的に取り組んでみたい。昨年開始した新たな石井ゼミの試みに、学生たちとともに大きな期待をかけたい。広く交流の輪を広げながら、多くの方々の支援・協力を乞いたい。

阪南大学大学院企業情報研究科 教授 石井 雄二

エンターテイナーの宝庫 — 沖縄の結婚披露宴事情 —

麻疹（はしか）は、毎年全国的に数十名規模でスポット的に発生しているようですが、ここ沖縄では、3月中旬に台湾から沖縄本島にやって来た一人の観光客によって4年ぶりにもたらされました。訪問先の観光施設や飲食店にたまたま彼と居合わせた観光客や従業員などが、連鎖的に感染・発症し、5月末現在で県内では99名の方々の罹患が確認され、沖縄旅行から地元に戻った方々から、全国へと広がりを見せました。



恩納村（おんなそん）

ちょうどゴールデンウィーク前の出来事で、沖縄行のキャンセル客も多く、6月1日現在で5,572名となり、沖縄県の経済全体にも影響を及ぼしていますが、発生後には予防接種の呼びかけ・未就学児に対する補助などの啓もう活動により、6月中旬には終息宣言し、この記事の掲載時には、通常の真夏のハイシーズンを迎えられそうです。毎週台湾・中国から多くの大型クルーズ船の寄港や航空機の増便に伴い、平成29年度の沖縄県の入域観光客数は、国内外合わせて958万人を達成、当初の目標だった1,000万人が3年ほど前倒しで達成できそうです。大いに歓迎に値するのですが、今年は例年に比べ降水量がかなり少なく、梅雨期間でも真夏のように晴れわたっています。離島によっては給水制限も始まっているのでこれらの数に対応できるか心配の種ではありますが、今後の恵みの雨に期待です。

さて、沖縄にリゾートウエディング（リゾート婚）をするためにお見えになる方が増えつつあります。県の資料によりますと、平成29年は、17,288組と対前年比112.3%と過去最高を記録し、今年も18,000組を目標に国内外含め、CMプロモーション等、数々の取り組みを展開しています。白い砂浜、エメラルドグリーン・コバルトブルーの海を見ながら挙式のできるチャペルが近年増えてきて、チャペルウエディングが全体の65.1%を占めています。また、沖縄らしい景色をバックに写真を撮る、フォトウエディング（32.4%）、海を目の前にしたビーチや琉球王朝時代の正装をまとったウエディングや沖縄料理をレストランで楽しむレストランウエディング等（2.5%）とニーズ・予算に合わせて選択できます。

最近増える傾向のあるフォトウエディングに関して以前、海をバックに撮影をしているグループを見かける機会がありましたが、撮影を支えるスタッフが案外多く、これらも雇用創出に寄与していると感じました。地元で行われている沖縄の結婚披露宴の特徴は、なんといってもその余興にあり、宴の時間の半分以上を占めています。“かぎやで風（ふう）”という祝いの席では欠かせない琉球舞踊がオープニングとなりますが、それにはどちらかの身内が踊ることがほとんどで、大役を任された親族は、本番に向けた練習が欠かせません。また友人が出演する余興は、流行のダンスユニットの曲に合わせて踊ることが多いのですが、多人数でやるので、本番に向けて夜や休日に公園や職場の会議室に集まり、練習に励みます。また、ドラマ仕立ての大作も多く、新郎新婦にゆかりのある場所や観光スポットなどでそれらしき撮影をしているグループも見受けられます。ライフスタイルの変化とIT技術のおかげで、最近では各人がスマホで撮影し、代表が編集アプリでまとめるといったグループも見られます。私自身は、最近では出演機会もほとんどなくなり、かぎやで風を踊るような年齢に近づいていますが、余興の練習やビデオ編集などの大変さよりも、新郎・新婦や招待客に演技を楽しんでもらうのと同時に、演者たち自身も仲間との再会や絆も深めることも楽しんでいると思います。

かつて琉球王朝時代に500年近く続いた行事で、中国からの使者（冊封使：さっぽうし）や日本本土からの客人をもてなしていました。それが現代では、結婚披露宴の余興という別の形で残っているのではないのでしょうか。日本の芸能界においても、ファッション文化にも影響を及ぼした歌姫や演技派俳優、ダンサー、お笑い芸人など多くの沖縄出身の方々が活躍されていることも、実はこれらのことがベースになっているのかもしれない。

沖縄県在住 城間 保

OLから転身、バレエ健康づくりを事業に！37歳からの起業！ 目標は「エイジレスバレエ・ストレッチ」で世界の健康寿命延伸！！

今年の1月末、経済産業省主催の「LED関西」（女性起業家ビジネスプラン発表会）にファイナリストとして出場させていただきました。

目的はただ一つ！「エイジレスバレエ・ストレッチについて伝えたい！」それだけでした。

そしてご縁あり、VEC様には私の事業の‘サポート企業’となっていただき、今回の寄稿の機会もいただきました。大変光栄です。また、この文章をお読みいただいている皆様にも、心より感謝いたします。「人生は、どこでどんなふうに展開していくか分からないものだな〜。」と、つくづく感じます。

今、起業して3年ですが、以前の私は15年間保険会社でOLをしていました。30歳半ばまで、長らくのOL生活でした。仕事があり、土日があり、長期休暇もあり、お給料とボーナスもある！「自分は恵まれていて幸せだ！」と、当時は心底思っていました。

でも、30歳を過ぎてから「何かが違う！」と思うようになり、そして就職活動以来の『自分探し』が始まり、しつこく自問自答。自分は何がしたいのか？見つけるべくアンテナを張り続けたところ、5年がかりでやっと見つけたのが『中高齢の方々にバレエで健康づくり』をすることでした。37歳で退職して起業。

OL時代のルーティンワークではなく、起業後は毎日中身の違う日々。仕事の範囲は、全て。上司も部下もいない。全ての責任を取るの自分。OL時代とは180度逆です。性格も必要に駆られて積極的になってきました。

「LED関西」でも、「私は絶対ファイナリストになりたいんです！！」と審査以前の段階からアドバイザーに訴える（^。^）

OL時代は‘受け身’保守的‘協調型’の人間だったのに・・・。「人生は、この先もどんな展開が待っているのか分かりません。」

でも、だから楽しいのだと。起業をしたことで、これまたつくづく思えるのだと思います。

『人生最後の日まで自分の足で歩く！』私の事業「エイジレスバレエ・ストレッチ」の目標であり、私自身の人生の目標でもあります。まだまだスタートしたばかりですが、世界を見据えて抜け、健康寿命を延伸！！

これからです。頑張りますので、どうぞよろしくお願い致します。

SAY合同会社 代表 藤井 治子

SAY
Ageless Ballet Stretch

SAY合同会社

H/P <http://sayjapan.jp>



T 530-0041 大阪府北区天神橋1-14-14 TEL (06)7502-9785



インドと日本をつなぐアクセラレータ・プログラム始動

インドにおけるスタートアップ企業の案件発掘・育成、日本企業との連携構築を目的としてインド大手ステンレスメーカーのジンダル・ステンレス・リミテッド（JSL）社と提携し、アグリテック・スタートアップ企業向けのアクセラレータ・プログラムを開始しました。

メンターは米国から経験豊富なエンジェル投資家と日本・インドから専門家を迎え、日本企業との連携促進プログラムを実施しました。また、JSL社が工場を持つオリッサ州の農村において州政府や現地でも活動するNGOとも連携しパイロット試験や農家に対するマーケティングを行う体制を構築しています。

インドでは世界の最先端に行くスタートアップ企業が生まれる一方で、13億人口のうち約半数は農業を主な生計にしています。インドの農家は小規模農家であり、先進国よりも30～50%生産性が低く機械化が遅れています。また、農作物の品質や物流・倉庫等の利便性が悪いことから40%の農作物が消費者に届くまでに劣化してしまいます。このような、農業を取り巻く問題をICTによって解決しようというスタートアップ企業が生まれています。

今回は約100社のアグリテック・スタートアップ企業から3社を選出し、インド・米国・日本から12人のメンターにお越しいただいて3ヶ月間のプログラムを実施しました。最初の1か月間はメンターによる特訓セミナーを実施し、その後JSL社がCSR活動を実施するオリッサ州の6カ所の農村（約80名の農家）を訪れました。また、JSL社と同様にオリッサ州でCSR活動を行うタタ・スチール、農業資材の多国籍企業であるUPL、さらには日本企業3社との連携促進セッションを実施し各企業のニーズに沿ってスタートアップ企業から連携提案を行いました。例えば、スタートアップ企業の一社 Our Foodは農家と小売業者の間に数多くの中間業者が入り、農家の利益は薄く農産物の品質や鮮度も劣化するという問題を解決すべく一日以内に小規模農家から集中購買した農作物を初期加工・配送するという、農業におけるジャストインタイムに近いビジネスモデルを構築しました。同社はプログラムに参加する前段階で6社の顧客企業を獲得し500件の農家から頻繁に購買を行うことに成功し、事業を急速に展開するためにフランチャイズ展開をすることを検討していました。プログラムを通じてフランチャイズ構築を実現し、5カ所でフランチャイズ加盟者を獲得しました。さらに今後の事業展開に伴い、物流ノウハウの強化や食品加工機器の開発を検討しており、引続き他社との連携についても支援しています。同社を通じて、日本企業がこの分野での優位性やインドに提供できる技術があることを改めて感じました。日本の安全・安心の品質管理やコンビニに代表される流通システムは素晴らしく、インドにおいて求められる農作物を求められる質や量で求められる時にいかに届けるかという課題を解決するために日本企業が培ってきたノウハウや技術が求められています。日本企業の食品加工や物流の技術とインドのスタートアップ企業が持つIoTやAI等と組み合わせることでイノベーションを生む連携が可能と考えています。弊社ではインド政府が運営するアグリカルチャー・グランド・チャレンジ事業において国際連携におけるパートナーになることになり、インドの農業課題を解決するスタートアップ企業と日本企業の連携を今後も支援していきます。

（※参照 <https://www.startupindiahub.org.in/content/sih/en/agriculture-grand-challenge/problem-statement.html>）

阪口 史保

ANEW Holdings Inc. Research and Business Development, India

6月の地震で皆様被害はございませんでしたか。お見舞い申し上げます。

～VEC関西より～

・米朝のトップ会談も無事終了。今度は日朝首脳会談も前進するようだ。7月は無病息災を祈って京都で祇園祭、大阪で天神祭が行なわれることでもあり、難しい事態が発生せず、平和な世の中になることを願っています。（本田）

・家庭菜園を始めてから5～6年経ちます。失敗作とかも多々ありましたが、この夏はキュウリ、トマト、獅子唐と最高の出来になりました♪・・・何でも最初はダメでも諦めずに続けることが大事ですね。もうすぐぐくくらも出来ます！朝採り野菜食べて健康一番！（藤本）

・今年の関西女性起業家応援プロジェクトLED関西においてのVECがサポーターとなり2名の女性起業家を応援致します。ホテル業界に新風を吹き込むL&Gグローバルビジネス(株)龍崎代表にはVEC交流会で講師を、中高齢者向けの健康づくりであるエイジレスバレエ・ストレッチのSAY合同会社藤井代表にはプレミアムクラブにて講師を、これからも我々も微力ながら色々な機会です「女性」を応援していきたいと思っております。ご協力よろしくお願い致します。

致します。

（濱本）

・石井教授はさらに研究の場を拡大されており、ご活躍を期待しております。城間様は以前、沖縄の公的機関から関西のベンチャー研究を大学等でなされた縁でVECにもご寄稿頂いております。SAYの藤井代表は女性起業家プロジェクト「LED関西」のファイナリストであります。応援よろしくお願い致します。ベンチャー支援の阪口女史はインドと日本を往復され、現在はインド農業の発展に尽力されています。（澤村）

<交流会の予定>

平成30年9月19日(水) SAY合同会社 代表 藤井 治子 様

平成30年10月25日(木) 彌榮自動車株式会社

不動産課 課長 熊谷 保 様

※7月、8月は例年どおり交流会は開催致しません。

一般財団法人 ベンチャーエンタープライズセンター関西支部
〒541-0053 大阪市中央区本町2-3-6 本町ビジネスビル9階
TEL 06-6263-0366 FAX 06-4964-6293